

平成 17 年度 湘南国際村青少年国際セミナー

Kanagawa Program of International Training (K-PIT)

世界の入口に立とう

■入門編「感じる・遊ぶ・語ろう—共に生きる世界を求めて」

2006 年 3 月 26 日(日)午後 ~ 28 日(火)午前 定員 45 名

■発展編「地球的課題に触れて・感じて・語ろう—私たちの役割」

2006 年 3 月 29 日(水)午後 ~ 31 日(金)午前 定員 45 名

湘南国際村を中心に活動する財団法人かながわ学術研究交流財団 (K-FACE) では、高校生世代を対象として「湘南国際村青少年国際セミナー (K-PIT: Kanagawa Program of International Training)」を開催しております。国際的なことに興味を持ち、世界のフィールドに羽ばたこうとする皆さんに、いま知って欲しいこと、考えて欲しいことを紹介するセミナーです。世界を知る一流講師陣の話聞き、同じ気持ちをもつ同世代の仲間と語り合うことで、これからの人生に大きなプラスとなる 3 日間を体験しませんか。

いま、国際的なことについて知らなくても、国際交流の経験がなくても OK です。必要なのは、好奇心と目的意識、そして「応募してみよう」というほんの少しの勇気です。あなたのチャレンジを待っています！



〔セミナーの特徴〕

- ・大学の先生など一流講師陣によるレクチャー
- ・ワークショップによる「気づき」と感動
- ・学校の枠を超えた仲間との語り合い
- ・日常生活から離れた環境での「未来」探し

* お申し込みの詳細は、〔募集要項〕のページをご覧ください。

〔お問合せ先〕

財団法人かながわ学術研究交流財団 安藤

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39 湘南国際村センター内

電話 : 046-855-1822 FAX : 046-858-1210

メール : k-pit@k-face.org 財団 URL : <http://k-face.org>



セミナーは「入門編」と「発展編」がありますので、日程やプログラム内容を参考に、第1希、第2希望を選択してください。また、各回3つのゼミナールから2つを選択して受講することになります。なお、必ずしもご希望に沿えない場合がございますので、予めご了承ください。

■入門編『感じる・遊ぶ・語ろう—共に生きる世界を求めて』(3/26~28)

【特別講演】

野中 章弘（ビデオジャーナリスト）

独立系通信社 アジアプレス・インターナショナル代表。1953年、兵庫県出身。ジャーナリスト。現在のテーマ「テロルの論理～アフガニスタン・イラク攻撃を問う」「在日コリアンたちの祖国と日本」「ヒロシマとアジア～原爆投下の思想と平和構築」「現代メディア論」「メディアの変革と新しいジャーナリズム」「憲法第9条と有事法」など。

【ワークショップ】

「地球家族フォトランゲージ」、「バングラデシュを開発する」ほか

【ゼミナール】

A. 「高校生から出来る国際協力」

遠藤 晋（県立向の岡工業高等学校 教諭）

アフリカのケニアを中心に発展途上国の人々の暮らしや諸問題と高校生が実際に行っている「アフリカの農村の生活改善」をテーマにした国際協力を紹介しながら、高校生が学んでいることを生かした国際交流・国際協力を提案したいと思います。それに併せて地球環境問題、エネルギー問題、保健衛生など地球全体の課題となっていることを話題に参加者全員で考えてみたいと思います。

参加者の興味があれば青年海外協力隊の活動なども紹介したいと考えています。

B. 「身近な国際化を考える—多文化社会としての日本」

細谷 早里（関東学院大学経済学部 助教授）

私たちは国際化と言うと海外に目を向けがちですが、実は日本国内にも様々な文化的背景を持った人たちがたくさん暮らしています。多くの外国籍の方もたくさん暮らしています。私たちが自分の身近に接するそういった人たちとの関係をよりよく築いて共存してゆくことが、よりよい国際関係を築いていくことへとつながって行きます。真の国際人とは、自分のおかれた環境、社会をまず正しく理解することから始まります。このゼミナールでは、日本を多文化社会と認識し、その現状を正しく理解し、共存の道を皆さんとともに考えてながら、世界を見る目を考えていきたいと思っています。

C. 「『目に見えないもの』を考えてみる—『～って何?』を問いかけ、対話を通じて理解を深める」

江藤 裕之（長野県看護大学 外国語講座〔英語〕 助教授）

よく耳にする「国際人」って言葉、いったい何なのでしょう？日本人、アメリカ人、中国人が存在するように、国際人も実際に存在するのでしょうか？それとも、ひとつの概念として頭の中だけに在るものなのでしょうか？このゼミナールでは、ふだんの何気ない言葉（今回は本セミナーに関連する言葉を取り上げます）の意味を問い直し、その言葉の目に見えない本質的な意味を考えてみます。そして、対話により自分の考えを他の参加者に伝え、他の参加者の考えを聞くことで自分の理解を深める体験をしてみます。フィジカル（物質的で具体的）な面だけでなく、メタフィジカル（精神的で抽象概念を重んじる）な面ものぞいてみましょう。

■ 発展編「地球的課題に触れて・感じて・語ろう—私たちの役割」(3/29~31)

【特別講演】

池田 香代子（「世界がもし 100 人の村だったら」 翻訳者）

グリム童話などの児童文学を中心に翻訳を行う一方で、『ソフィーの世界』（ヨースタイン・ゴルデル著）、『夜と霧 新版』（ヴィクトール・E・フランクル著）などの翻訳も手がける。また、世界中を駆けめぐった Eメールの再話『世界がもし 100 人の村だったら』を出版。その売上金で「100 人村基金」を立ち上げ、アフガン難民などの支援を行うなど、社会参加の場でも精力的に活動する。

【ワークショップ】

「世界がもし 100 人の村だったら」、「援助と開発」ほか

【ゼミナール】

A. 「南北問題として世界を見直す—21 世紀の希望のシナリオを考えてみる」

勝俣 誠（明治学院大学国際学部 教授、国際平和研究所 所長）

「西洋に学び、西洋に追いつく」、これは日本が開国して以来常に目標としてきたことでした。しかし、モノやヒトが地球規模で極めて速く移動する現代において、西洋以外の人々やそこで起きていることをしっかりと知って考える必要性は益々高まっています。実際、世界の貧困層の圧倒的多数は一般に「途上国」とか「南」と呼ばれる地域の人々です。この地域の直面する農村や都市の貧困、環境の悪化を「北」の私たちはどのように観察し、どんな解決の切り口を見つけていくことができるのか、私たち自身の生活する「北」の抱える様々な問題と結びつけて討論できればと思います。

B. 「国際感覚って何？」

佐久間 健一（横浜国際女学院翠陵高等学校 副校長）

国際感覚を磨くって、外国の生活習慣に通じ、外国の人とスマートにつきあうことができるようになることでしょうか？ 通信・輸送手段がどんどん発達し、いろいろな国の人たちとの交流の機会が増えることによって、新たな国際感覚が必要になっています。21 世紀に生きる皆さんにとって必要な国際感覚について一緒に考えていきましょう。

C. 「『目に見えないもの』を考えてみる—『～って何？』を問いかけ、対話を通じて理解を深める」

江藤 裕之（長野県看護大学 外国語講座〔英語〕 助教授）

内容は「入門編」と共通です。前ページをご参照ください。

[プログラムの概要]

・ 特別講演

世界のフィールドで活躍し、ものごとを地球レベルで考える「国際人」による講話。日常生活でのちょっとした視点の変化によって、世界の見え方が大きく変わることを実感。

・ ワークショップ

プロのファシリテーターによる参加型学習。自らが考え、行動し、感じたことを仲間と共有することで様々な「気づき」を体験。

・ ゼミナール

各分野の専門家や識者のリードにより、様々な角度から「国際人」として生きるためのヒントを得る。各回、3 つのゼミナールから 2 つを選択。

・ プレゼンテーション

セミナーで学んだことをふりかえり、それぞれが発見したことや感じたことを共有する。3 日間で得たものを深め、新たに出会った仲間たちと、大切なことは何かを話し合う。

〔募集要項〕

- セミナー名 平成 17 年度 湘南国際村青少年国際セミナー「世界の入口に立とう」
■入門編「感じる・遊ぶ・語ろう—共に生きる世界を求めて」
2006 年 3 月 26 日(日)午後 ~ 28 日(火)午前 [2泊3日]
■発展編「地球的課題に触れて・感じて・語ろう—私たちの役割」
2006 年 3 月 29 日(水)午後 ~ 31 日(金)午前 [2泊3日]
*平成 16 年度セミナーに参加された方は、発展編へのご参加をお勧めいたします
- 会場 湘南国際村センター（神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39）
会場 URL : <http://www.shonan-village.co.jp/>
- 応募資格 神奈川県内の高等学校などに在学しているか、昭和 62 年 4 月 2 日から平成 2 年 4 月 1 日までに生まれた神奈川県内在住・在勤・在学の方
- 募集人数 各回一般公募による 45 名（両セミナーへ参加することはできません）
- 参加費用 13,000 円（税、食費、宿泊費、セミナープログラム費等を含みます）
*会場までの交通費は含みません
- 応募方法 「参加申込書」にペンまたは濃い色の鉛筆（B 以上）で必要事項を記入の上、下記の宛先まで FAX または郵送にてお送りください。なお、記入漏れ等、書類に不備がある場合は選考の対象となりませんのでご注意ください。
- 〔FAX 番号〕
046-858-1210 「K-PIT 係」

〔郵送先住所〕
〒240-0198
神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-39 湘南国際村センター内
財団法人 かながわ学術研究交流財団 「K-PIT 係」
- 募集期間 平成 18 年 1 月 4 日(水)から 2 月 23 日(木)まで《必着》
- 選考 〔選考基準〕
現時点での知識量ではなく、セミナーで何かを学びたいという強い意志と目的意識を基準にします。なお、定員に達しない場合でも、一定の選考基準に満たない方は参加をお断りする場合があります。
〔選考方法〕
「このセミナーで学びたいこと」の文章に基づき、ゼミナール講師らが選考を行い、参加者を決定します。参加が決定した方には、電話またはメールで通知した上で、参加手続きに必要な書類を連絡先住所に郵送します。
- 宿泊 原則として同性での複数人部屋（3 人～6 人）となります。
- 参加者引率 セミナー期間中は、主催団体である財団法人かながわ学術研究交流財団職員およびゼミナール講師が参加者を引率します。また、大学生有志による学生アドバイザーが、プログラムの進行および生活面で参加者をサポートします。

